

安全管理を機能させるためには

作業者のリスク意識向上も、マニュアル順守も、危険予知活動も、全てリスクマネジメントには大切な事項ですが、作業者のリスク意識が低くなってしまいう要因を掴めない状態で、意識向上だけ行っても対策が機能するわけではないです。

例えば、赤信号を無視して横断歩道を渡れば、交通ルールを遵守できていないこととなりますが、日常的にあちこちで赤信号を平気で無視する人はいるものです。「急いでいるから」「誰も見ていないから」「車が来なかったから」など、いろいろな理由によってルール遵守が損なわれます。ルール無視の要因を事故発生のメカニズムに照らし合わせて分析しない限り、ルールを逸脱する理由が優先されて、いつまでも遵守できなくなります。

分かっているやってしまうという意識と行動を変えて行かない限り防げません。打合せ時に周知させ、現場に入る前、休憩、作業終了時にも作業員同士での確認が必要です。

その他に、安全機能のある道具であったり、参考になる資料などを提供することも大事になっていきます。事故を未然に防ぐ努力は、企業側と1人1人の意識にかかっています。

依田林業でのコミュニケーション

打合せ時は、全員が話せるように1人1人に質問等して安全管理を行っている

各班同士の進捗状況などを、近い現場であれば話しをしたりしている

仕事の効率を図るために、お互いのやり方や道具等を共有している

現場の写真や、作業に関する要望を確認出来るように、LINEでやり取りしている

小さなことでも報告し合えるように、事務所内にも来てもらい、確認し合っている

新人のケアも、本人に出来るだけ毎週話しを聞き、従業員と内容を共有している

林業の防寒対策

林業は雨や雪など天気・季節に左右される職業ですが、晴れていれば気温なんて関係ありません。しかし、冬の山は寒いです。今回は寒い時期の防寒対策について紹介します。

間伐や枝打ちといった伐採作業中は代謝が上がるため寒さは感じませんが休憩中や作業が終了して車に戻るまでの移動は汗が冷えるためかなり寒くなります。冬場の防寒対策も工夫の1つと言え、人によってそれぞれ異なります。チェンソーパンツは特殊繊維が入っているため生地が厚く、冬は暖かいです。防寒着は冬の現場では必須アイテムです。移動中や休憩時にないと寒さで凍えてしまいます。人によって様々ですが大きく分けてベストタイプとジャケットタイプの2種類が使われており、作業中は肩や腕が生地に引っ張られる事がないためベスト、移動や昼休憩はジャケットを着るのが主流です。問題は足元です。雨が降った次の日の現場は冷えているので寒さ倍増です。足先用のカイロは、長靴を履いていると靴の中が酸欠状態になるため、足先カイロが全く温まりません。指先が冷えるのは汗を吸収した靴下が冷えることで体温を奪われるからです。なので、昼休憩の際に新しいのに履き替えることで冷えが治ります。作業靴は、登山用の厚手の靴下を2枚重ねで履くのがオススメです。足袋は自衛隊が40km行軍に使用するガッツマンのストロング5本指ソックスがオススメです。自分に合った物で、寒さ対策をして、快適に作業できるようにすることも、安全対策の1つとして繋がります。是非お試しください。

依田林業新聞

発行所

(有)依田林業
塩山事務所

前向きになれる一言
上司部下であろうと、等しく横一線に並んでいる関係であると、良い人間関係が築ける。対等な関係であれば、仲間意識が生まれ、自然と協力しようとする



自衛隊員も愛用している
疲れにくく蒸れづらい靴下
“ガッツマン”